

先生各位

No. 21-41
2021年7月

新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。
このたび下記の検査項目につきまして受託を開始することになりましたのでご案内申し上げます。
今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。 謹白

記

● 新規受託開始日 2021年9月2日（木）受付分より

● 新規受託項目

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値
3506	抗リン脂質抗体パネル 5G519-0000-023-051	血清 0.6	1	(分離後) 凍結	4~6	696 (免疫)	CLIA	20.0以下 (U/mL)

<報告様式>

- ・抗カルジオリピン IgG (抗CL IgG)
- ・抗カルジオリピン IgM (抗CL IgM)
- ・抗β2グリコプロテインI IgG (抗β2GPI IgG)
- ・抗β2グリコプロテインI IgM (抗β2GPI IgM)

※4種の抗リン脂質抗体をご報告いたします。

<保険算定について>

- *1: 抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、抗カルジオリピン抗体および抗β2グリコプロテインI抗体の測定を行った場合に、抗カルジオリピン抗体の所定点数の3回分を合算した点数を準用して一連の治療につき2回に限り算定できます。
- *2: 抗カルジオリピンβ2グリコプロテインI複合体抗体、抗カルジオリピン抗体、および本検査のいずれか2つ以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

抗リン脂質抗体パネルの詳細は裏面参照

<抗リン脂質抗体パネル>

抗リン脂質抗体症候群（APS）は、血中の抗リン脂質抗体（aPL）により多様な病態を引き起こす自己免疫疾患群です。

APSはaPLにより血液が凝固傾向になり、動静脈血栓症や流産・不育症などの妊娠合併症の原因となる後天性血栓性素因と定義されています。

APSには単独で発症する原発性と自己免疫疾患である全身性エリテマトーデス（SLE）に合併するものがあり、その比率はほぼ半々と考えられています。aPLの主要対応抗原は、陰性荷電を持つリン脂質と結合した β 2グリコプロテインI（ β 2GPI）とプロトロンビンであることが明らかになっており、診断用検査手法としては抗体自体を測定する免疫学的方法と、ループスアンチコアグulant（LAC）を凝固時間の延長により検出する機能的方法に大別されます。

免疫学的方法によるaPLの抗体系検査には抗カルジオリピン抗体（aCL）や抗 β 2GPI抗体などがありますが、従来保険適用されたものはaCL IgGのみであったため、総合的な評価が困難であるという側面がありました。

本検査は主要なaPLをアイソタイプ別にパネル検査として抗カルジオリピン抗体IgGとIgMおよび抗 β 2GPI抗体IgGとIgMの4項目を同時に測定するもので、2020年7月に保険適用となりました。

これにより、国際血栓止血学会が定める分類基準および難病情報センターが定める診断基準に沿った検査が可能となり、これらを一連で測定することはAPSの診断に有用と考えられます。